

旧陸軍第七師団について調べる

中央図書館資料調査室作成

旧陸軍第七師団の存在は旭川の都市形成等に大きな影響を与え、図書館にも関連する事項について様々な質問が寄せられます。ここでは、特に旭川との関わりを中心に第七師団について調べる主な方法を紹介します。

以下に紹介する書名の後の（）内の数字は旭川市図書館の請求記号（本の置かれている場所）です。頭にH、Rがついているものは中央図書館2階資料調査室内で閲覧できます。場所がわからない時は、職員にお尋ねください。

1 本で調べる

（1）総括的な資料 屯田兵制度の創設から師団の解体までを叙述した資料

①『旭川第七師団』（H392シ, 396.21シ）示村貞夫 総北海 1984

歴史、制度、変遷、行動などを詳細に叙述。図表、資料も豊富に掲載され、第七師団以外の北海道諸兵団についても概略があります。第七師団を調べる際に基本となる資料。

②『新旭川市史』第3巻（H23573, 211.4シ3）旭川市 2006

〃 第4巻（H23574, 211.4シ4）旭川市 2009

幅広い史料により師団の歴史と旭川との関わりについて詳細に叙述。節ごとに主要参考文献があり、資史料からさかのぼって調べることもできます。

③『旭川市史』第2巻（H23572, 211.472）旭川市 1959

〃 第5巻（H23575, 211.475）旭川市 1971

師団と旭川の関わりについて叙述。終戦後の状況、自衛隊発足までの経緯も記されています。

④『最強師団の宿命』（H392ホ, 396.21ホ）保阪正康 毎日新聞社 2008

明治から終戦までの歴史を叙述しながら、現地取材や関係する人々の証言を多く盛り込んでいます。

(2) 第七師団関係記録

①『師団歴史』第壹号～第五号

師団創設以前の前身、明治 29 年 5 月から昭和 20 年 6 月までの師団長、将校らの異動、演習の日程など師団の動向と事歴を記録。

②『満洲駐劄間留守師団歴史』

大正 6 年、昭和 13 年に師団が満洲に派遣された間に、旭川で編成された留守部隊の歴史。

③『樺太守備隊司令部歴史』

日露戦争後に設置された樺太守備隊の創設（明治 38 年）から廃止（大正 2 年）に至る間の事歴についての記録。

④『北海道及樺太兵事沿革』

第七師団が編纂した北海道・樺太の兵事に関わる歴史。記述は 655 年「阿倍比羅夫ノ征夷」から明治 43 年 5 月の「第四回ノ樺太守備隊」まで。

以上は『新旭川市史 第 8 巻（史料 3）』（H235 7 8, 211.4 7 8）に翻刻されています。（原本は北鎮記念館所蔵）

(3) 部隊史、従軍記ほか

①『歩兵第二十六連隊史』（H392 木）歩兵第二十六連隊史追録編纂委員会 1991

②『歩兵第二十七聯隊外史』（H392 木）歩兵第二十七聯隊外史編集委員会 1995

③『歩兵第廿八連隊概史』（H392 木）陸上自衛隊第 28 普通 1970

④『第七師団衛生部員の回想』（H392 シ, 396.21 夕）深緑会 1990

このほか、様々な個人・団体が発行した資料があります。

(4) 旭川という「まち」と第七師団

都市形成や市民生活と師団との関わりについて、次のような資料があります。

①『旭川市史小話』（H235 木, 211.4 木）村上久吉 豊談クラブ 1964

明治～戦後までの師団を含む旭川での身近な事件、人物伝などの小話を収録。

②『北の兵隊』（H392 シ, 390.4 シ）示村貞夫 総北海 1987

兵営生活のほか、当時の衣食住、生活文化などが記されています。

③『旧陸軍第七師団の建築』（H392 カ）川島洋一 東海大学芸術工学部川島研究室 2013

旭川を中心に現存する、またはかつて現存していた師団関係建築物の調査から、師団建築が旭川に与えた影響について記されています。

④『軍隊を誘致せよ 陸海軍と都市形成』（H392 マ, 210.6 マ）松下孝昭 吉川弘文館 2013

明治期の旭川ほか各都市の事例から、師団・連隊の設置と都市形成、住民との関わりなどについて記されています。

⑤『北の軍隊と軍都』（H392 チ 1, 392 チ 1）吉川弘文館 2015

旭川ほか北海道・東北の都市を中心に、市民生活と軍隊の関わりを描き、軍隊の歴史的・社会的な役割について記されています。

(5) 戦史叢書

防衛研修所戦史室(現防衛省防衛研究所戦史研究センター)編さんの公刊戦史(全102巻)です。第七師団に関連する主な巻として次のものがあります。

『北東方面陸軍作戦<1>アッツの玉砕』(391.26 ㊦ 1)

『北東方面陸軍作戦<2>千島・樺太・北海道の防衛』(391.26 ㊦ 2)

『関東軍<1>対ソ戦備・ノモンハン事件』(391.2 ㊦ 1)

『南太平洋陸軍作戦<1>ポートモレスビー・ガ島初期作戦』(391.26 ㊦ 1)

(6) 事典類

①『帝国陸軍編制総覧』全3巻(R396.21 ㊦) 芙蓉書房出版 1993

陸軍組織の解説及び時代ごとの変遷, 主要人事(約7万名)などが掲載。

②『日本陸海軍総合事典』(R390.03 ㊦) 東京大学出版会 2005

陸海軍の制度・組織を人事を中心とする基礎データでまとめた総合事典

③『完本 日本軍隊用語集』(R392.1 ㊦) 寺田近雄 学研パブリッシング 2011

死語となった軍隊用語をやわらかく解説しています。

その他の事典類として、『日本陸軍将官辞典』(R396.03 ㊦), 『陸軍師団総覧』(396.21 リ), 『日本陸軍歩兵連隊』(H392 シ, 396.21 ニ)等があります。

2 新聞記事で調べる

新聞には師団に関する人事, 事件, 催しなど様々な記事が掲載されています。

資料調査室では明治～昭和の北海タイムスほか地方新聞をマイクロフィルムで閲覧できます。また旭川に関する記事の見出データベースがあります。

※マイクロフィルム, データベースとも欠号があります。

3 地図や写真で調べる

(1) 地図

①「第七師団旭川衛戍地全図」(明治36年)

師団関係施設がわかりやすく概観できる鳥瞰図です。

②「旭川市地形原図」(大正末頃)

1/1,200の大縮尺地図。建物1棟単位で調べる事ができます。

このほか, 師団設置以降の各種地図を所蔵しています。

(2) 写真

『北海道第七師団写真集』(H392 ヲ)ほか写真帳, 絵葉書を所蔵しています。

このほか, 資料調査室では図書館所蔵写真の画像データが閲覧できます。

4 インターネットで調べる

(1) 史料を閲覧する

① 国立公文書館アジア歴史センター(<http://www.jacar.go.jp/>)

国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センターが保管する歴史資料のうち、デジタル化が行われたものを公開しています。

● 第七師団に関するデジタル資料の例

- ・ 人事関係：「第7師団将校高等文官職員表(昭和14年3月20日調)」
- ・ 関係法規集：「陸軍成規類聚」
- ・ 命令：「別冊第1一木支隊作戦要領 昭和17年5月5日」など

② 国立国会図書館デジタルライブラリ(<http://dl.ndl.go.jp/>)

国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できます。
検索結果中「館内限定」資料は中央図書館資料調査室で閲覧できます。

● 第七師団に関するデジタル資料の例

- ・ 人事関係：「陸軍現役将校同相当官実役停年名簿(大正9年)」, 「職員録」
- ・ 統計類：「陸軍省年報」, 「陸軍省統計年報」 など

(2) 研究状況などを調査する

① 国立国会図書館サーチ(<http://iss.ndl.go.jp/>)

国立国会図書館をはじめ、主要公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が持つ図書、雑誌記事・論文ほかを検索できます。

② CiNii Articles - 日本の論文をさがす(<http://ci.nii.ac.jp/>)

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できます。

③ 学術機関リポジトリポータル JAIRO(<http://jairo.nii.ac.jp/>)

日本の学術機関リポジトリ(研究成果を蓄積し公開する仕組み)に蓄積された学術情報を横断的に検索できます。

※WEB上で見られないものは、取り寄せ、複写依頼ができますのでご相談ください。

5 関係機関で調べる

① 北鎮記念館(<http://www.mod.go.jp/gsdf/nae/2d/hokutin2/top.html>)

旭川市春光町国有無番地 ☎0166-51-6111(内線2496))

② 旭川兵村記念館(<http://www.a-heison.sakura.ne.jp/sanpai/nyuukann.html>)

旭川市東旭川南一条6丁目3-26 ☎0166-36-2323